第374憲兵中隊　全米ポリス・ウィークを開催

374th Security Forces Squadron hosts National Police Week

May 18, 2021

By Staff Sgt. Joshua Edwards
374th Airlift Wing Public Affairs

毎年5月15日の週、米国では殉職もしくは負傷した警官の貢献を称える「全米ポリス・ウィーク」が開催される。

第374憲兵中隊は、それらの隊員に敬意を表し、憲兵隊員の職務について基地の住民に広く周知するため、この週に幾つかのイベントを主催した。

第374憲兵中隊隊長のジョナソン・マレー中佐は、「これ（ポリス・ウィーク）は我々の部隊にとって重要な行事である。我々が法の執行と保護のために任務していることを基地の住民に理解してもらい、軍人だけでなく、扶養家族やホスト国のパートナーも含め、横田基地の全ての人々に安全安心な環境を提供したい」と述べた。

第374憲兵中隊は、隊員の任務を理解してもらうため、部隊のさまざまな部署を紹介するオープンハウスを開催した。また、憲兵隊は（軍人と軍属対象に）射撃場を開放し、M4の射撃のコンペティションを行い、上位10%にメダルを授けた。

「憲兵隊員が日々どのような任務を行っているのかを理解してもらうためには、コミュニティに参加してもらうことが大事だ。（基地の）人々がここに来て、隊員と話し、同中隊のさまざまな部署を見ることで、理解が得られる」と第374憲兵中隊戦闘兵器担当下士官アレクサンドリア・ブライ技能軍曹は語る。

ポリス・ウィークのフィナーレに、殉職した法執行機関の関係者に敬意を表すためのリトリート式典が行われた。式典では、スピーチが行われたほか、日米の国旗が降納され、殉職した警察官や憲兵隊員の任務終了を告げる鐘が鳴らされた。

「このように殉職した警察官や憲兵隊員を称えることは大事だ。彼らの存在を忘れてはならない。この式典は彼らの犠牲を思い起こすためのものだ」とブライ技能軍曹は述べた。